

令和8年2月14日

「縄文にときめく」～オリジナルグッズでもっと縄文が好きになる～

千葉学園高等学校 生活文化科

協力 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

【1 背景・目的】

令和2年度から生活文化科の専門科目の学びを活かし、縄文の魅力を発信する活動を展開している。昨年度は、縄文オリジナルグッズの販売と刺しゅうの制作体験を行い、来場者から「今後も高校生の感性で制作したグッズの販売を継続して欲しい」といった声を多数いただいた。今年度も私たちが縄文と現代の架け橋となり八戸市民の皆様や観光で訪れた方々に是川石器時代遺跡の魅力を知っていただく機会にしたいと思い、活動を継続した。

また、私たちもあらためて是川石器時代遺跡について学ぶことで、誇りと愛着を感じ、縄文時代に新たな発見をすることを目的に、事業を展開した。

【2 事業内容】

昨年度、好評だった「土偶の練り切り」を継続し、グッズ販売を行うことにした。繊細な作業だったが、お客様に喜んでもらえる作品になるよう趣向を凝らし、デザイン・試作を重ねた。事業内容のお知らせは、ポスターの掲示・チラシの配布・本校と是川縄文館のホームページに掲載をした。

- ① 是川縄文の日のイベントで「土偶のチャーム」「土偶・文様のマドレーヌ」「土偶の練り切り」オリジナルグッズ販売、土偶の刺しゅう図案配布、アンケート調査

※お菓子製造のご協力は菓子処丸美屋

日時 11月3日（月・祝）9：00～16：00

場所 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

- ② 縄文の刺しゅう制作体験

日時 10月12日（日）9：30～15：00

場所 千葉学園高等学校 バザーの来場者



【3 事業の成果】

是川縄文の日のイベントでは、開館前から作品を楽しみにして下さるお客様の列ができ、盛況だった。「土偶のチャーム」50点、「土偶・文様のマドレーヌ」180点、「土偶の練り切り」200点が大好評で完売となった。お客様から、お菓子の商品化を望む声が多くあり、12月15日から八食センター丸美屋店で「土偶練り切り」3種類が販売されることになった。

「縄文の刺しゅう」制作体験は、千葉バザーの来場者が15名参加して下さった。地域の方と触れ合い縄文の文様を知っていただく機会になり、完成したときにはとても喜んで下さった。

【4 感想・今後の活動】

グッズ制作をしているうちに愛着が湧き、楽しみながら縄文文化について学び、理解を深めることができた。縄文時代からあるものが、愛されていて素敵だと感じた。活動を継続してきたことで、商品化することもでき、縄文の魅力をPRすることにつながっていると実感した。今後も是川石器時代遺跡から出土した美しい土器や土偶の魅力を、たくさんの方に知ってもらえるよう新たな取り組みを提案し、発信していきたい。